

## エコアクション21

### 環境経営レポート(2023年度)

運用期間 2023年11月1日～2024年10月31日

宮崎県産業開発青年隊 市木キャンプ



昭和37年2月建立 土木の道



作成日 2024年11月30日

株式会社 丸山 工務店

## [ 目 次 ]

表 紙

目 次

1. 組織の概要及び対象範囲	P-1
1) 事業者名及び代表者名	〃
2) 所在地	〃
3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先	〃
4) 事業創立年月日	〃
5) 事業活動	〃
6) 事業規模	〃
7) 対象範囲	P-2
8) EA-21推進組織図	〃
2. 環境環境経営方針	P-3
3. 環境経営目標	P-4
4. 環境経営目標の実績	P-5
5. 環境経営計画と取組結果とその評価	P-6
6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P-7
6-2. 次年度の環境経営目標（詳細）	P-8
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P-9
8. 代表者(会長)にのよる全体評価と見直しの結果	〃

# 1. 組織の概要及び対象範囲

## 1) 事業者名及び代表者名

株式会社 丸山工務店  
代表取締役 中村 博文

## 2) 所在地

本社事務所 〒886-0007 宮崎県小林市真方1059番地27  
資材置場 〒886-0005 宮崎県小林市南西方2660番地3

## 3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先

EA-21 責任者 営業部 山下 信吾  
EA-21 事務局責任者 総務部 鶴戸 田寿子

連絡先 山下信吾 (EA21責任者)  
TEL TEL 0984-23-2705 FAX 0984-23-6252  
E-meil maruyamakoumuten@aurora.ocn.ne.jp

## 4) 事業創立年月日

昭和 44年 4月 1日 [創立より 55 年]

## 5) 事業活動

建設業(土木工事業、舗装工事業、とび・土工・コンクリート工事業、建築工事業、解体工事業)

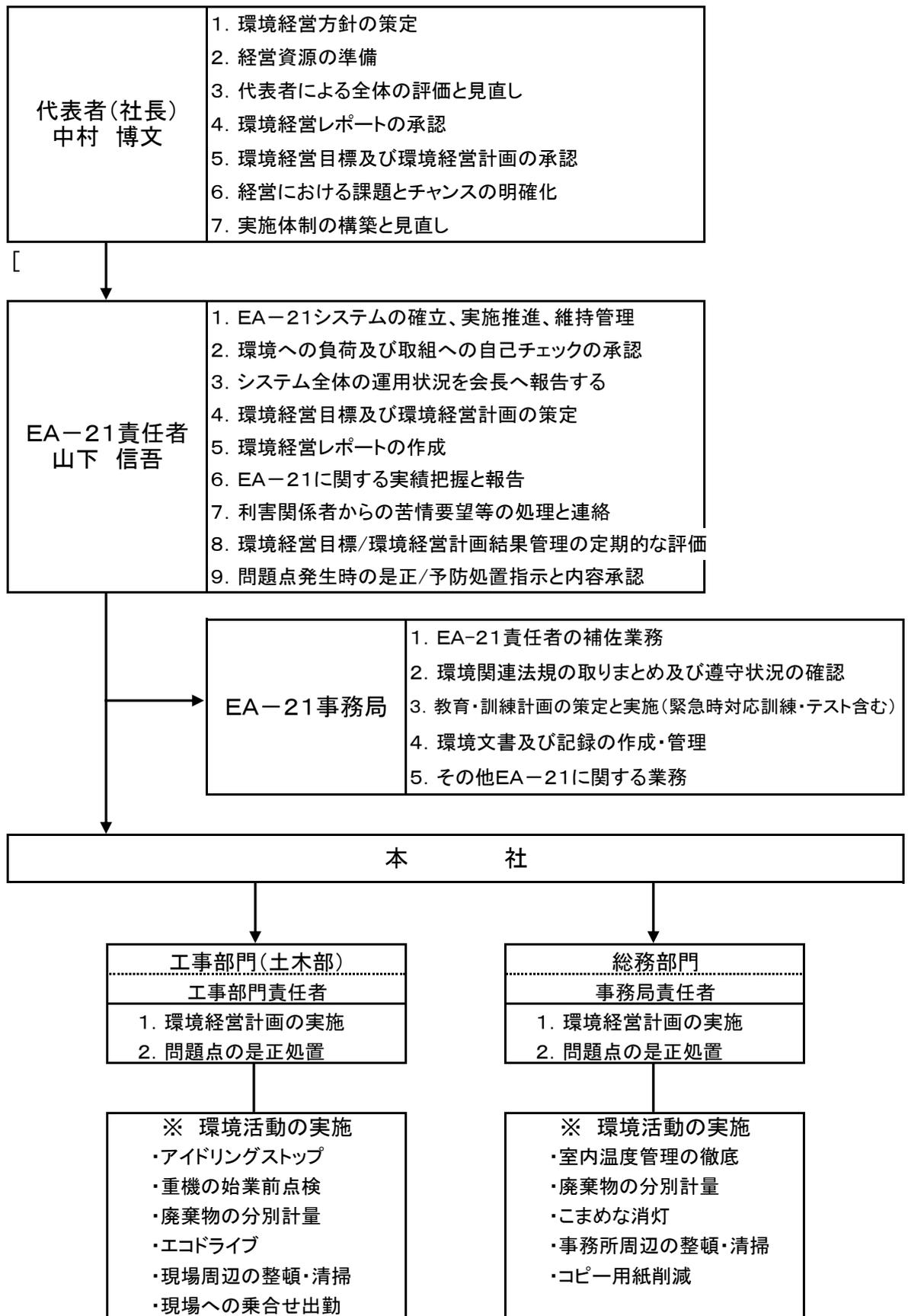
## 6) 事業規模

項目	単位	2021年	2022年	2023年
工事件数	件	18	21	14
従業員数	人	7	9	13
事務所床面積	m <sup>2</sup>	100	100	100
敷地面積	m <sup>2</sup>	450	450	450

## 7) 対象範囲

対象組織 全社  
対象活動 (5)事業活動の全て  
レポート対象期間 表紙に掲載  
レポート発行日 表紙に掲載

## 8) EA-21 推進組織図



## 2. 環境経営方針

# 環 境 経 営 方 針

当社は、事業活動が与える環境負荷を把握し、資源循環型社会、及び低炭素化社会による持続可能な社会形成は人類共通の最重要課題であることを認識し、建設を通して環境との調和を図り、環境に配慮した行動に努め、地域社会の発展に貢献するとともに環境経営の継続的改善に努める。

1. 我々は、環境保全活動を推進するためエコアクション21に参加し、これを運用・維持することを確実にする
  2. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体・地域等の要請に協力します
  3. 事業活動に於いて環境に与える影響を削減するため、次の事項に対して優先的に取組みます
    - ①化石燃料使用量・電気使用量の節減によるCO2排出量の削減
    - ②建設現場や事業所から排出される廃棄物の削減・再利用の促進
    - ③節水活動による水使用量の削減・雨水の有効利用
    - ④積極的な環境保全提案による環境配慮型工事施工の推進
  4. コピー用紙の使用量削減、資材等のグリーン調達に努め、循環型社会の実現に貢献いたします
  5. 環境保全に関する啓蒙・啓発と、地域での社会貢献活動に努めます
  6. 人材不足や社員の高齢化が進む中で、若手社員の育成に努めます。
- この活動を積極的に実施するため、全社員に周知徹底するとともに、一般に開示します

改定 令和1年12月1日  
制定 平成21年10月15日

(株)丸山工務店  
代表取締役社長  
中村 博文

### 3. 環境経営目標

当社の環境経営目標は、2021年度運用開始時に、基準年、基準値を見直し第五次の3ヶ年目標を設定しました。  
なお、目標設定の基準は2018年度から2020年度の実績平均のデータを使用しています。

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年度別環境目標				
		基準値 (2018年度～2020年度 実績平均)	2021年度 (2021年11月～ 22年10月)	2022年度 (2022年11月～ 2023年10月)	2023年度 (中期の到達目標) (2023年11月～ 2024年10月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> )	事務所	14,401.6	14,257.8	14,185.7	14,113.6	
	現場	202,854.0	200,825.4	199,811.2	198,796.9	
	全社	217,255.6	215,083.2	213,996.9	212,910.5	
	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
	①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	7,071.3	7,000.6	6,965.2	6,929.9
		現場	2,661.7	2,635.1	2,621.8	2,608.5
		全社	9,733.0	9,635.7	9,587.0	9,538.3
	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
	②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	5,076.8	<b>5,026.1</b>	<b>5,000.7</b>	4,975.3
		現場	19,121.5	18,930.3	18,834.7	18,739.1
全社		24,198.3	<b>23,956.4</b>	<b>23,835.4</b>	<b>23,714.4</b>	
削減率%⇒		1.0	1.5	2.0		
③軽油使用量の削減 (L)	現場	61,048.3	60,437.8	60,132.6	59,827.3	
	全社	61,048.3	60,437.8	60,132.6	59,827.3	
2 廃棄物の削減	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	全社	125.4	124.1	123.5	122.9
			125.4	124.1	123.5	122.9
②. 建設副産物再資源化率の向上	現場	実績 500トン (再資源化100%)	再資源化率95%以上 (環境経営計画を遵守する)			
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) ( m <sup>3</sup> )	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
	事務所	69.5	68.8	68.5	68.1	
	全社	69.5	68.8	68.5	68.1	
4. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全社	9回	9回以上/年	9回以上/年	9回以上/年	
5. 環境配慮型製品・サービスの提供	全社	環境経営計画の遵守	環境経営計画の遵守	環境経営計画の遵守	環境経営計画の遵守	

\*2021.12.1 改訂点  
 ・2018～2020年度の実績平均を基準値として、第五次中期の目標値を設定した。  
 ・電気のCO<sub>2</sub>排出係数は、2021年(令和3年)1.7公表九州電力の調整後排出係数0.371(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を採用した。  
 ・目標値は、別紙目標算定シートの年合計を優先して調整している。

※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用、購入、保管、移動ともにありません。  
 ※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した。(排出量(kg-CO<sub>2</sub>) = 使用量(A) × 排出係数(B))

	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	kWh	<b>0.371</b>	(kg-CO <sub>2</sub> /kWh)
ガソリン	L	<b>2.32</b>	(kg-CO <sub>2</sub> /L)
軽油	L	<b>2.58</b>	(kg-CO <sub>2</sub> /L)

\*2021.1.7 環境省公表の九州電力の調整後を使用  
 2017年版環境への負荷自己チェック表の係数に合わせた。

## 4. 環境経営目標の実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

- 実績値は、2023年度運用期間(11月～10月)の12ヶ月と、目標値は基準年度(2018～2020年度実績平均)の同期間の削減率から算出した年合計の値と比較する。
- 総量は、11月～10月の12ヶ月間の合計とする。

取組項目		2023年度目標値 (2023年11月～ 2024年10月)	2023年度実績 (2023年11月～ 2024年10月)	達成率	判定	
1. 二酸化炭素排出量の削減 2.0% (kg-CO <sub>2</sub> )	事務所	14,113.6	1,251.5	1127.7%	○	
	現場	198,796.9	129,042.5	154.1%	○	
	全社	<b>212,910.5</b>	<b>130,294.0</b>	<b>163.4%</b>	○	
	(LPGを含む総排出量)⇒			<b>130,310.1</b>	—	—
	①電気使用量の削減 2.0% (kWh)	事務所	6,929.9	2,748.0	252.2%	○
		現場	2608.4	2091.0	124.7%	○
		全社	<b>9,538.3</b>	<b>4,839.0</b>	<b>197.1%</b>	○
	②ガソリン使用量の削減 2.0% (L)	事務所	4,975.3	100.0	4975.3%	○
		現場	18,739.1	8,236.2	227.5%	○
		全社	<b>23,714.4</b>	<b>8,336.2</b>	<b>284.5%</b>	○
	③軽油使用量の削減 2.0% (L)	事務所	0	0	—	
		現場	59,827.3	42,309.6	141.4%	○
		全社	<b>59,827.3</b>	<b>42,309.6</b>	<b>141.4%</b>	○
2. 廃棄物の削減 ①一般廃棄物の削減 2.0% (kg) ②建設副産物再資源化率 の向上	①全社	122.9	57	215.6%	○	
	②現場	再資源化率95%以上 (環境経営計画を遵守)	(総排出量 369.2t 再資源化率 56.7%)	59.7%	×	
3. 水資源使用量の削減2.0% (m <sup>3</sup> )	全社	68.1	26.0	261.9%	○	
4. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全社	9回以上/年	10回/年	111.1%	○	
5. 環境配慮型製品・サービスの提供	全社	環境経営計画の遵守	遵守	—	○	

※ 購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の調整後0.371(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しました。

※ 達成率は、項目1～3が、目標/実績 100%以上が判定○で、項目4～が、実績/目標で100%以上が、判定○とする。

## 5、環境経営計画と取組結果とその評価

2023年11月1日から～2024年10月31日までの環境経営計画と取組結果は以下の状況です。

\*実施スケジュールは2023年11月からの1年間

取組項目と活動内容		取組結果	評価		
1. 二酸化炭素排出量の削減	電気削減量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底特に現場では遵守する。	電気の使用量は事務所・現場共に年間目標を達成出来た。今後も継続して啓蒙・啓発活動を通じて、不必要な箇所、休憩時、退席時の電源のOF切替をこまめに行うよう朝礼・安全会議等を通じて指導を行う。	○	
		②パソコン・コピー機等のOA機器は省電力設定に設定する。		○	
		③ウオームヒズ・クールヒズの推進		○	
	ガソリン消費量の削減	①エコドライブの徹底・アイドリングストップ・急加速等の禁止	ガソリンの消費量は事務所・現場共に年間目標を達成出来た。工事量の増減により変動はあるものの、安全会議・朝礼等において、啓発活動の継続必要性を説明し、更なるエコ活動に取り組んでいきます。また、負荷のかかる様な運転操作・乗り合わせ等の基本も忘れずに注意喚起を継続します。	○	
		②運行計画や経路を見直しエネルギー消費の少ない運搬を検討する。		○	
		③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折り返し運行の撲滅を図っている		○	
	軽油消費量の削減	①エコドライブの徹底	軽油の使用量は年間目標を達成出来た。自社機械・リース等含めて、第3・4次排ガス規制のリース建設機械等を使用し、CO2の削減に社員・作業員・協力会社の皆さんと共に取り組んでいきます。アイドリングストップ・負荷のかかる様な作業の自粛等月の安全パトロール・朝礼時において注意喚起を行う。	○	
		②建設機械の始業前点検、定期点検の実施		○	
		③建設機械はできるだけフルパワー操作をしない		○	
		④施工方法や作業方法の見直しでエネルギーの消費削減を図っている		○	
	2. 廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録	一般廃棄物は分別計量と記録を正確に記録され、年間目標も達成できた。今後もコピー用紙の節約、無駄なコピーはしない様に注意喚起を行う。詰め換え可能な製品使用推進、使い捨て製品使用抑制と資材梱包物の業者へ持ち帰りの依頼。簡易包装物の奨励を行い、一般廃棄物の減量化に努める。	○
			②コピーは裏紙使用、両面・縮小・集約コピーに努める		○
③詰替え可能な製品使用推進や使い捨て製品使用抑制			○		
④電子回覧やペーパーレスを促進して、できるだけ紙の使用を控える			○		
建設副産物の遵守		①マニフェストの即時起票	産業副産物の処理は、法に則り適切に処理されていた。県知事への報告・提出も正しくされていた。今後も法令にのっとり、適正に処理し監視を行う。	○	
		②すべての建設副産物は決められた方法(仕様書通り)で廃棄する(安全パトロールによる確認)		○	
3. 水使用量の削減	水資源使用量の削減	①車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、出来るだけ雨水等を利用する。	水資源の使用量は年間目標を達成出来た。漏水対策として、定期点検を実施している。現場においては、雨水等を積極的に有効活用した。今後も継続するよう呼びかけを行う。	○	
		②水道配管からの漏水を定期的に点検する		○	
		③雨水貯留タンク設置や雨水利用設備等により雨水や山水を利用する		○	
4. 環境保全の取組推進	①事務所及び現場周辺の清掃活動	清掃活動等のボランティアに10回参加し、地域の人々や、主催者に大変感謝されている。次年度も地域貢献に社員一同積極的に参加し、環境整備・環境保全に貢献し地域の方々への安全・安心に寄与する。また、コロナ禍において少しずつ開催数が増えてきた。今後も積極的にボランティア活動に参加して行く。	○		
	②地域ボランティア活動参加		○		
5. 環境型製品サービスの提供	①環境配慮型の建設機械を使用する。(低騒音型・排ガス対策型・低振動型・エコ操作型等)	現場においては、環境に配慮した建設機械・発電機等を積極的に導入し、環境に配慮し努力をする。工期短縮は重要事項として取組、効果をあげている。	○		
	②しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む		○		
	③環境負荷の少ない材料の採用(リサイクル材、県産材等)再生資材を優先に使用する		○		

## 6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2024年度)の環境経営目標と環境経営計画は、以下の通りです。

\*実施スケジュールは、2024年11月～2025年10月です。

環境経営計画(取組項目と活動内容)		推進 責任者	環境経営 目標	
省エネルギー項目	1. 二酸化炭素排出量の削減	①以下の省エネルギー活動の推進	次年度(2024年度)の環境経営目標は、次ページに詳細を掲載しています。	
	電気の削減 使用量	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底、特に現場では遵守する。		総務部門 鵜戸田寿子
		②パソコン・コピー機等のOA機器は省電力設定に設定する。		
		③ウォームビス・クールビスの推進		
	消費量の削減	①エコドライブの徹底・アイドリングストップ・急加速等の禁止		総務部門 鵜戸田寿子
		②運行計画や経路を見直しエネルギー消費の少ない運搬を検討する		
		③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折り返し運行の撲滅を図っている		
	軽油消費量の削減	①エコドライブの徹底		工事部門 梅津悠吾
		②建設機械の始業前点検、定期点検の実施		
		③建設機械はできるだけフルパワー操作をしないようにする		
④コンプレッサや発電機など、使用しない時はこまめにエンジンをストップする				
2・廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	①資源物を再生りようできるように分別して最終処分量を削減する。	総務部門 鵜戸田寿子	
		②コピーは裏紙使用、両面・縮小・集約コピーに努める		
		③再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入する		
		④マイ箸、マイボトル運動を展開する(自分のゴミは自ら処理する)		
	建設副産物の削減 遵守	①建設資材発注時は仕様書を再チェックして在庫の確認を行い、残余資材の発生を抑制する	工事部門 梅津悠吾	
②建設残余資材が発生したら、資材倉庫に持ち帰り分別して保管する(再利用の推進)				
③廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼する				
3 水使用量	水量の削減	①車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、出来るだけ雨水等を利用する。	総務部門 鵜戸田寿子	
		②水道配管からの漏水を定期的に点検する		
		③雨水貯留タンク設置や雨水利用設備等により雨水や山水を利用する		
4. 環境保全の取組推進		①事務所及び現場周辺の清掃活動	総務部門 鵜戸田寿子	
		②協会や地域ボランティア活動参加		
5. 環境配慮の取組推進		①環境配慮型の建設機械を使用する。(低騒音型・排ガス対策型・低振動型・エコ操作型等)	工事部門 梅津悠吾	
		②しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む		
		③環境に関する研究会、講習会への参加による施工技術等の向上		

※取組項目と活動内容は、社会情勢や、事業内容等の変化があった場合、適宜見直します。

## 6-2. 次年度の環境経営目標(詳細)

当社の2024年度環境経営目標は、2024年度運用開始時に、新基準年、新基準値を見直し、第六次の3ヶ年目標を設定しました。なお、目標設定の基準は2021年度から2023年度の実績のデータを使用しています。

第六次中期 [ 2024年度 ]

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年度別環境目標				
		基準値 (2021年度~2023年度 実績)	2024年度 (2024年11月~ 25年10月)	2025年度 (2025年11月~ 2026年10月)	2026年度 (中期の到達目標) (2026年11月~ 2027年10月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> )	事務所	2,305.2	2,282.2	2,250.7	2,209.8	
	現場	218,461.9	216,277.3	215,185.0	214,066.6	
	全社	220,767.1	218,559.5	217,435.7	216,276.3	
	削減率%→		1.0	1.5	2.0	
	①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	4,267.0	4,224.3	4,161.0	4,077.7
		現場	3,742.0	3,704.6	3,685.9	3,612.2
		全社	8,009.0	7,928.9	7,846.8	7,689.9
	削減率%→		1.0	1.5	2.0	
	②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	120.0	118.8	118.2	117.6
		現場	15,286.2	15,133.3	15,056.9	14,980.5
全社		15,406.2	15,252.1	15,175.1	15,098.1	
削減率%→		1.0	1.5	2.0		
③軽油使用量の削減 (L)	現場	70,240.5	69,538.1	69,186.9	68,835.7	
	全社	70,240.5	69,538.1	69,186.9	68,835.7	
2 廃棄物の削減	削減率%→		1.0	1.5	2.0	
	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	全社	94.2	93.3	92.8	92.3
			94.2	93.3	92.8	92.3
②. 建設副産物再資源化率 の向上	現場	実績平均 769ト (再資源化92.1%)	再資源化率95%以上 (環境経営計画を遵守する)			
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) ( m <sup>3</sup> )	削減率%→		1.0	1.5	2.0	
	事務所	64.0	63.4	63.0	62.7	
	全社	64.0	63.4	63.0	62.7	
4. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全社	9.3回	9回以上/年	9回以上/年	9回以上/年	
5. 環境配慮型製品・サービスの 提供	全社	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	

\*2024.12.1 改訂点 ・2021~20230年度の実績から最大値を基準値として、第六次中期の目標値を設定した。

・電気のCO2排出係数は、2024年(令和6年)7.19公表九州電力の調整後排出係数0.475を採用した。

・目標値は、別紙目標算定シートの年合計を優先して調整している。

※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用、購入、保管、移動ともありません。

※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した。( 排出量(kg-CO<sub>2</sub>) = 使用量(A) × 排出係数(B) )

	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	kWh	<b>0.475</b>	(kg-CO <sub>2</sub> /kWh) *2024.7.19 環境省公表の九州電力の調整後を使用
ガソリン	L	<b>2.32</b>	(kg-CO <sub>2</sub> /L) 2017年版環境への負荷自己チェック表の係数に合わせた。
軽油	L	<b>2.58</b>	(kg-CO <sub>2</sub> /L)

## 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社では、環境関連法規制の遵守状況確認を毎年4回実施しており、違反はありませんでした。また監督官庁からの指摘及び、地域住民から訴訟等もありませんでした。尚、現場での遵守状況は、月1回の安全パトロールや会議等を通じて常に確認しています。当社の事業に関係する主な環境関連法規制は、担当者がWeb（環境省ホームページの環境基準・法例等）の改定履歴や建設業協会等からのお知らせ等から年次の運用開始時に見直しと取り纏めを行っています。

[当社の主な環境関連法規と遵守状況は下記の通りです。]

主な関連法規名	遵守事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法(廃掃法)	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2.D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化により得られる資材の使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (建設機械搭載のエアコンを含む)	対象有り (遵守)
	・解体工事における解体前フロン類機器設置有無の確認、発注者への書面説明 ・第1種フロン類充填回収者への引き渡し	該当なし
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	遵守 該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	遵守 該当工事なし

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果 [2023年度]

評価項目	代表者による評価と指示(○評価、●次年度への指示)
①環境経営計画の実施状況及び環境経営目標の達成状況	○環境経営計画の実施状況は、環境経営計画(兼)実施状況評価表によるとほぼ実施されていることを確認した。 ●次年度は2024年度の環境経営計画を実施していただきたい。 *-----* ○2009年度よりエコアクション21に取り組み始め15年が経過しました。現場の安全管理と同じで、マンネリ化しない様に会社・各現場真剣に工夫しながら取り組んでいた。環境経営目標達成状況管理表において、全ての項目において達成することができた。 ●二酸化炭素削減における電気の使用量及び軽油の使用量は、現場の内容や条件に大きく左右され活動の結果が数値として現れないこともあるが、環境負荷低減の意識を持ちながら引き続きエコ活動の向上を図りましょう。 廃棄物の削減については、無駄な購入がないよう在庫確認の徹底と資材の再利用に努めてください。 ・次年度(2024年度)では第六次中期(2024~2026年度)の新基準値、削減率の設定、目標値の設定を行うが、第五次の3年間の実績を考慮した計画作りを御願いたい。
②環境関連法規等の遵守状況	○環境環境連法規の取り纏め(兼)遵守評価表によると、当社に関連する法規の取り纏めと全て遵守していることを確認した。 ●今後も法令を遵守し、現場施工に当たるように。
③外部からの環境に関する苦情や要望等	○環境情報記録表で確認。環境に関する苦情・クレームが無かったこと、ボランティア活動については、積極的に参加し年間9回の目標対して10回参加したことを評価する。今後も社会貢献を積極的に推進して(注)。
④環境経営方針	○2019年に改定した方針は特に不具合は無かった。 ●次年度も現行方針を継続し全社員に更に周知する。
⑤実施体制	○2023年度内に担当を改定したが特に不具合は無かった。 ●次年度も現行体制を継続する。
⑥その他全般について	特になし